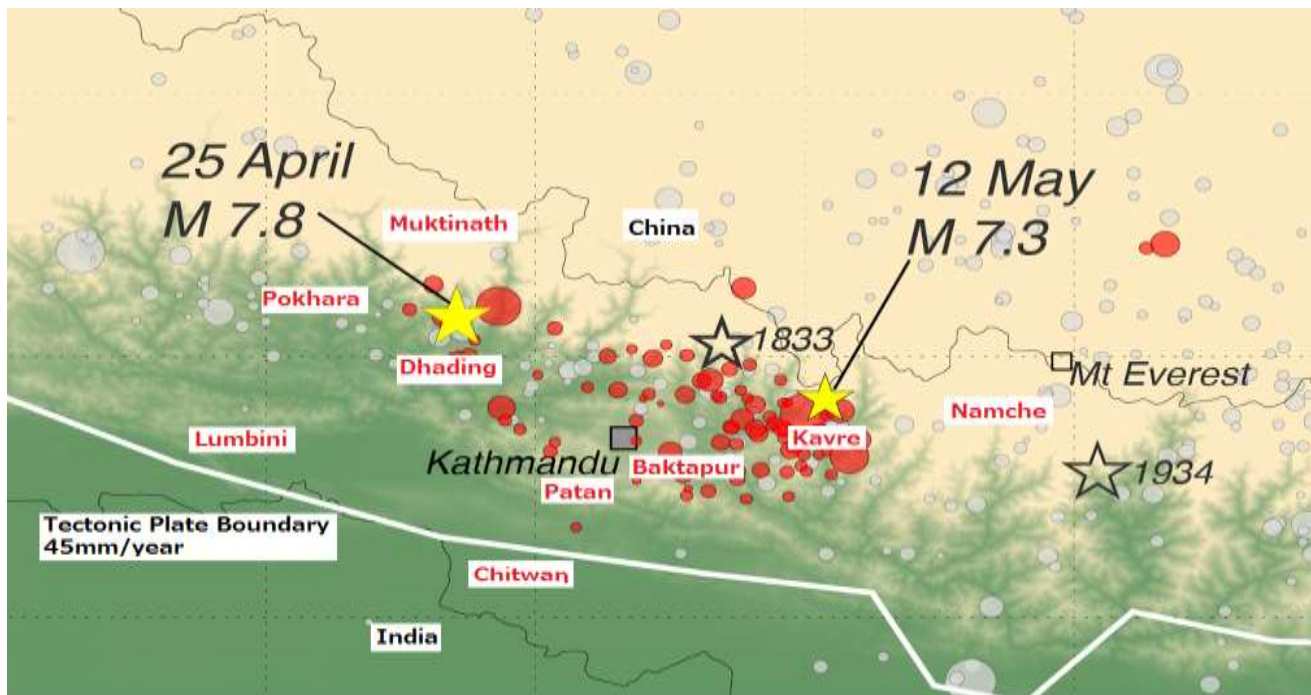


Nepal 大震災支援結果報告

2018-4-25 NPO 未来舎・会員 近藤吉信

1. 初めに；2015 年 4 月 25 日 Nepal を M7.8 の大地震が襲いました。Everest への基地初め観光産業は大打撃、技術支援を 25 年続けたとはいえ、一介の老人に何が出来得るか？直後に視てきました。「日本人観光客を連れて来て！」との定宿の女将の言葉から、勝手に NPO 未来舎・主催の「Samanubhuti-Mission」（思いやり使節団）と銘って、この **3 年間で 8 回、延べ 24 名** の皆様のご協力で現地訪問支援を実施しました。完全復興に至った Boudhanath（ボータ寺院）以外は復興手つかず又は道半ばの被災地が多いのですが、私にとって、節目の 3 年が経ちますので、ご支援いただいた皆様に結果と今後の計画を報告します。
2. 主な訪問地区：観光兼ねて、震源地地域も訪問しました。（赤字で示す）



3. 支援内容：多くの有志の方から、(1)総額：¥1415,000 の義援金(2)下着類やアクリルタワシ多数の寄贈、(3)小学校で折り紙教室交流(4)現地 NGO との交流など御支援・協力いただきました。
4. 義援金などの寄贈先：「寄贈先の顔が見える」をモットーに、NPO 未来舎の名前で配布した事例です。
(1)NGO/LEADERS;Nepal 設立 30 年を迎える環境 NGO、被災後の疫病蔓延などによる死者「ゼロ」達成のため、Kavre 地区の Health Post(村の簡易診療所)の設備・圧力型消毒釜などの充実活動などに義援金を寄贈。



事務局長 Dhiraj とその Staff : Kavre 事務所にて



注射器・ハサミなど医療機器煮沸消毒用圧力釜(15psi加圧)の寄贈

Kavre の Health Post にて
左端が 25 年来のガイド : Niranjan

(2)Mr.Bishnu : 元 LEADERS の計測技術者 ; 20 年来の交流. 現在は NRCS(Nepal Red Cross Society) の補給物資管理と運送担当. 被災した 6 畳一間の雑貨店兼自宅で親子 4 人が生活. 店舗改修と長男 Mohit の教育資金として義援金を寄贈.



(3)NPO/Tewa(サポートを意味するネパール語)会長 : Nirmala KC ; Nepal 初の女性首相を目指す女性人権向上活動家. Kethmandu に自費で Training-Center 設立, 公募した近隣大学の女子大生 100 名を, 放課後, 世界中から講師を招聘して教育. その活動支援に義援金を寄贈.



(4)Marigold School;Bhuban 校長 ; 20 年来の友人 : 保育園・幼稚園・小中一貫校 : 新聞紙「兜」の折り紙教室開催交流



失業率 50%といわれ, 国内に職場少なく, 生徒・親とも海外志向強い. 授業は全て保育園でも英語. 聞き取りにくく訛りはあるが皆・流暢. 生徒数はこの 20 年で 80 名から 850 名に増加.

(5)アクリルタワシの配布：横浜の NPO の Senior-Volunteer 制作の環境に優しい食器洗い用，アクリル毛糸タワシを(左：Thrang Rimpoche Boarding School, チベット難民学校)，(右：移動の道すがら，街道食堂の調理場)など多数か所に配布．



5. 復興状況：垣間見た例を下記するが，復興の格差は著しい．

(1)Jagat Narayan Temple(Bishnu 神を祭った由緒あるヒンズー教寺院は，シッコロ造りの本堂が完全倒壊．歴史遺産盗難防止と思われる防御柵が作られたのみ，再建の兆しは何もない．(左)震災直前，(右)2018 年 3 月；守護神 Garuda, Ganesh などのみ残存．全世界からの復興救援資金を Nepal 政府は活用できていない？



(2)Boadhanath(チベット仏教寺院)：ダライラマ 14 世を筆頭に，徹底した世界規模の布教活動が，多額の復興資金を生んだと見えて，僅か 3 年で完全復興に至った．東日本大震災でも「Pray for Japan」の燈明が寺院を覆い，チベット仏教の尊厳・威光は計り知れず．



2016 年 3 月：震災 1 年後に早くも復興の槌音

2018 年 3 月完全復興

6. 今後の計画

(1)震災発生後 3 年経過したので、義援金主体の支援は終了します。

(2)年齢(喜寿)・体力・気力・金力に鑑みて、2021 年 4 月までの今後 3 年間、主として現地 NGO : LEADERS の Clean Fuel Demonstration Program に、環境技術支援を主体として、歴史遺産・ヒマラヤ・観光含め、交流を継続します。

改めて、皆様のご協力に感謝いたします。

以上



Kavre 地区の農村では、調理竈は室内設置です。主たる薪から、バイオガス、LPG などへの代替が、健康にどのように効果を発揮するか？ 測定データをベースとして、政策提言につなげる活動が始まっています。Kathmandu 大学、US の NPO が、サポートしています。